

道徳通信かがわ

第42号

令和3年11月8日（月）

香川県教育委員会事務局

義務教育課

「考え、議論する」授業 ー研究推進校 公開授業（2）ー

10月12日（火）、善通寺市立西中学校において、1年担任の糸瀬元陽教諭が「風を感じて ー村上清加のチャレンジ（東京書籍）」を題材にして道徳科の研究授業を行いました。授業後の検討会では、香川大学清水顕人准教授からご指導をいただきました。

【公開授業「風を感じてー 村上清加のチャレンジ」（糸瀬元陽教諭）】

勉強、部活動、習い事など、生徒が感じる「困難」にどう向き合うかがポイントでした。授業者の糸瀬先生は、村上清加さんの事故から現在までの人生を数直線に表し、幾度となく困難にぶつかりながらも努力し続ける姿を視覚化しました。また、「あなたはどこまでチャレンジできるか」を中心発問とし、数直線上に名札を貼らせ、それぞれの立場で意見交流することで多様な意見に触れる機会をつくりました。糸瀬先生は、困難を乗り越えるためには継続した努力が必要であるという生徒、大きな困難には無理とあきらめてしまう人としての弱さについて語る生徒など、一人一人の意見に寄り添い、共感していました。振り返りでは、「困難から逃げることは悪いとは思わない。ただ、困難に出会ったときにこの授業で話し合ったことを思い出してくれればいい」と生徒に語り、ワークシートには目標に向かって一歩踏み出す決意が多く書かれていました。



【授業後の検討会（香川大学 清水顕人 准教授）】

村上さんの想像をはるかに超える「努力」に触れ、「村上さんはすごすぎる人だ」と距離感が広がることは「自分事として考える」ことに逆行する難しい題材である。村上さんの人生の節目ごとの心情を子どもたちへ掲示物に表現させたことは、「もし、自分が村上さんだったら・・・」と自分事として考える工夫であった。振り返りでは、糸瀬教諭の生徒を鼓舞する温かい語りがあり、生徒はこれからの自分らしい生き方について考えるいい機会となる授業であった。

※指導と評価の一体化の実現を意識した授業の振り返りの視点について

- ・道徳科の特質を生かし、道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、人間としての生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- ・発問は、生徒が広い視野から多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分の事として捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ・生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する生徒の発言などの反応を適切に指導に生かしていたか。
- ・自分自身としての関わりで、物事を広い視野から多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- ・ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、生徒の実態や発達の段階 にふさわしいものであったか。
- ・特に配慮を要する生徒に適切に対応していたか。